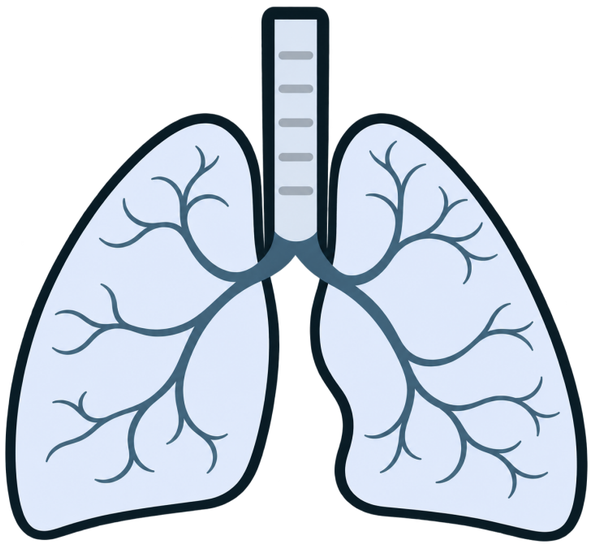
START REHA

呼吸療法を学ぶ医療職のための

呼吸療法認定士 一問一答集

一問一答で考える。

解答の理由を、解説で確かめる。



間違えた問題は、

繰り返し何度も解いてみよう！

10問　サンプル版

○×問題 / 短い解説 / まとめ図

このサンプルの使い方

左ページの右端に、淡い色の正答があります。

初回は正答欄を隠して解き、

右ページの解説で理由を確認します。

復習では、左ページだけで答え合わせ。

何度も周回することで

復習する機会をたくさん得られます。

まずは○×で考えてみよう

Q01　胸腔内圧

胸腔内圧は安静時吸気時は＋4〜＋8 cmH_2O程度である。

×

Q02　気管支と肺血管

肺静脈は気管支と伴走しながら肺門に向かう。

×

Q03　呼吸筋

努力呼気時には大胸筋や菱形筋が働く。

×

Q04　酸素解離曲線

2,3-DPG濃度が上昇した際、酸素解離曲線は右方移動する。

○

Q05　肺胞気動脈血酸素分圧較差

A-a DO_2はシャントで開大するが、換気血流比不均等では開大しない。

×

解答と解説

Q01 ×

安静時の自発呼吸では胸腔内圧は常に陰圧で、吸気時にはさらに低下します。大気圧を基準にした正負の符号を確認しましょう。

Q02 ×

気管支に沿って分岐するのは肺動脈です。肺静脈は肺動脈と異なる走行をとり、肺門へ向かいます。

Q03 ×

努力呼気では腹筋群や内肋間筋の骨間部などが働きます。安静呼気は主に肺などの弾性収縮によって起こります。

Q04 ○

2,3-DPGの増加は酸素親和性を低下させ、酸素解離曲線を右方へ移動させます。同じ酸素分圧では酸素飽和度が低くなります。

Q05 ×

A-a DO_2は、シャントに加え、換気血流比不均等や拡散障害でも開大します。肺胞気と動脈血の酸素分圧の差を表します。

まずは○×で考えてみよう

Q06　呼吸機能検査

換気能を調べる検査にはスパイロメトリーや肺気量分画の検査などがある。

○

Q07　最大吸気量

最大吸気量は、予備呼気量＋一回換気量である。

×

Q08　全肺気量

全肺気量は、肺活量＋機能的残気量である。

×

Q09　コンプライアンス

動的肺コンプライアンスは静的肺コンプライアンスよりも大きい。

×

Q10　COPDの画像所見

COPDの画像所見では、胸部レントゲン写真において横隔膜は高位となる。

×

解答と解説

Q06　○

スパイロメトリーでは肺活量や1秒量などを測定します。

Q07　×

最大吸気量（IC）は、一回換気量（TV）＋予備吸気量（IRV）です。安静呼気終末から最大吸気位までの量です。

→まとめ図は最後の見開き

Q08　×

全肺気量（TLC）は、肺活量（VC）＋残気量（RV）です。

→まとめ図は最後の見開き

Q09　×

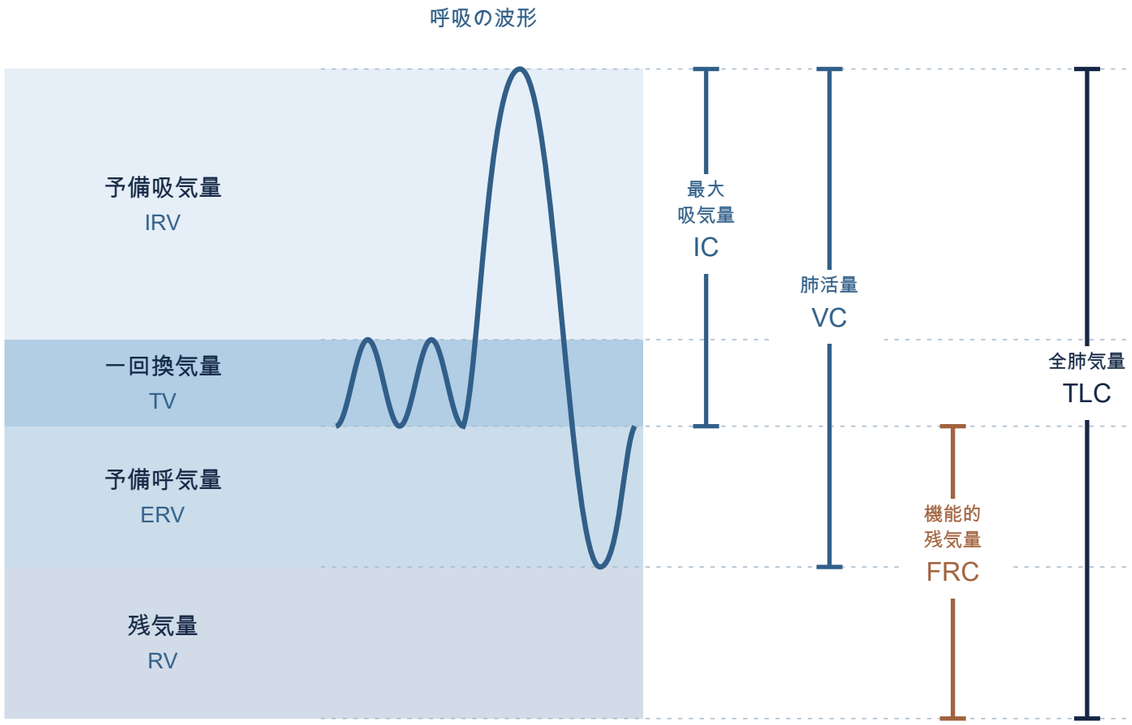
動的肺コンプライアンスは、静的肺コンプライアンスよりも若干小さい。

Q10　×

肺過膨張を伴うCOPDでは、横隔膜の低位・平坦化がみられることがあります。画像所見は呼吸機能検査などと合わせて評価します。

肺気量分画を図で確認

４つの基本分画と、それらを組み合わせた４つの肺気量



模式図：分画の高さ・波形は実測値ではありません。

最大吸気量 IC
TV ＋ IRV
安静呼気終末から最大吸気位まで

肺活量 VC
IRV ＋ TV ＋ ERV
最大呼気位から最大吸気位まで

機能的残気量 FRC
ERV ＋ RV
安静呼気終末に肺に残っている量

全肺気量 TLC
VC ＋ RV
最大吸気位で肺にある総量

続きの学習に

START REHAの問題集の収録内容や形式は、販売ページで確認できます。まずはこの10問を解き直して、曖昧だったところを確かめてみてください。

START REHA 問題集の案内

https://startreha.base.shop/



解き終えたら、答えを隠してもう一度。間違えた文章を正しく言い換えられるか、試してみましょう。

START REHAが制作する独自教材です。